

特集：OECD 既存化学物質初期評価シリーズ

この特集シリーズは、主として、経済協力開発機構（OECD）が実施している高生産量（HPV）化学物質の人および環境に与える影響の初期リスク評価に関する活動プログラムの成果を紹介しています。このプログラムでは、OECD 加盟国政府および化学産業界が国際的な協力体制の下で HPV 化学物質の人および環境に与える影響を評価するための一定のスクリーニング情報データ（SIDS）を整備し、定期的に行われる初期評価会議（SIAM）において審議しています。この号では本シリーズの第 2 回目として次の 2 報が掲載されました。

1. 高橋美加、他 “OECD 化学物質対策の動向（第 10 報） - 第 18 回 OECD 高生産量化学物質初期評価会議（2004 年パリ）”
2. 松本真理子、他 “OECD 高生産量化学物質点検プログラム：第 22 回初期評価会議”

なお、OECD の初期リスク評価活動の全体的な概要に関しましては、第 2 巻第 1 号に江馬眞氏の詳細な報文が掲載されています。併せて参照されたい。（文責：星川欣孝）